

第三者意見



横浜市立大学 学術院国際総合科学群 教授
国際都市学系長

上村 雄彦 氏

今やCSR(企業の社会的責任)は、時代と社会の要請である。CSRは、経済、環境、社会の3本柱からなり、従業員、地域住民、取引先、NGOなど幅広い利害関係者の幅広い社会的ニーズをつかみ、企業がこれらのニーズに応えることで、社会から信頼を得ながら、持続可能な社会の一員として貢献することが求められている。とりわけ、利益の一部を寄付をするというやり方ではなく、本業を通じて社会に貢献する「ほんもの」のCSRが、企業の本気度を測る目安となる。

アスファルト舗装工事を中心とする舗装・土木工事およびアスファルト舗装の材料であるアスファルト合材の製造・販売を中核事業とする株式会社NIPPOがそれにどのように応えているのか、興味深くレポートを読んだ。

まず目についたのは、環境への取り組みである。NIPPOは、2012年度に2009年度比でCO₂排出量を3.6%削減している。この点との関連では、CO₂排出量を削減する低炭素舗装は注目に値する。また、産業廃棄物の最終処分率も0.46%とほぼ「ゼロ・エミッション」に近い。これは、とりわけアスファルト廃材の再利用によるところが大きい。

また、都市のヒートアイランド現象を抑制する「遮熱性舗装」、透水機能や交通騒音低減機能を持つパーピラスと呼ばれる舗装により、通過車両による水跳ねを抑制し、走行騒音を

低減する技術は、まさに本業を通じたCSRである。同じく、放射性物質に汚染されたアスファルト舗装道路の表面を、薄く削り取ることでも除染する「薄層切削路面除染システム」の開発も、NIPPOならではの社会的責任の遂行であろう。その他にも、従業員の安全への配慮の徹底、「災害に強いまちづくり」を通じた被災地復興支援など、貴重な取り組みをされている点は評価したい。

他方、環境に関して、12ページの表にあるとおり、基準年が異なっているのは問題である(2009年度比と2011年度比が混在)。また、2013年のCO₂排出量削減目標が2012年度の実績よりも低いものがある(たとえば、2012年度は2009年度比で5.3%削減したのに対し、2013年度の目標は同年比4%になっているなど)。混合廃棄物排出量削減は難しいところではあるが、いずれ何らかの具体的な目標を復活させるべきであろう。

また、CSRを考える際、NIPPOの事業だけでなく、サプライチェーンマネジメントまで踏み込む必要があるが、今回のレポートでは特に記述がなかった。

このように、改善すべき点があるものの、総じてNIPPOは真面目にCSRに取り組んでいることがうかがわれ、今後の活動に期待したい。

ご意見をいただいて



環境安全・品質保証部長
北村 一博

上村先生には、貴重なご意見をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

当社では「確かなものづくりを通じた豊かな社会の実現」を企業理念に、道づくり・まちづくりを通じて持続可能な社会の発展に貢献することを使命と考えております。その意味

で、遮熱性舗装やパーピラスなどの環境配慮技術については、今後も研究・開発に力を入れ、本業を通じた社会への貢献を一層推進していく考えです。

改善点については、いただいたご指摘を参考とさせていただきます。取り組みに努めたいと思います。工事内容に排出量が依存する混合廃棄物のように、当社だけでは数値目標の設定が難しい事項もありますが、社会に資する企業となるべく、これからも幅広い皆さまからのご意見を踏まえて、一層充実したCSR活動に取り組んでまいります。